

# 南硫黄島周辺海底火山の最近の活動等について\*

海上保安庁水路部

本会報第38号に報告した後の南硫黄島周辺海底火山の活動状況は、以下のとおりである。

ここで報告する期間は、1987年(昭和62年)2月18日から1988年(昭和63年)1月7日までである。

- 1. 福神海山      北緯    21度56分  
                  東経    141度28分
- 日光海山    北緯    23度04.5分  
                  東経    142度18.5分
- 南日吉海山 北緯    23度30.4分  
                  東経    141度54.3分
- 海德海山    北緯    26度07.3分  
                  東経    141度06.1分

第1表に示すように、この期間はいずれの海底火山にも変色水は認められなかった。

第1表 福神海山、日光海山、南日吉海山及び海德海山の火山活動の経過

Table 1. Volcanic activities of the Hukuzin Seamount, the Nikko Seamount, the Minami-Hiyosi Seamount and Kaitoku Seamount.

年 月 日	観 測 結 果	出 所
1987. 2. 18	変色水を認めず。	海自航空機
3. 17	" (海德海山は観測せず)	"
4. 14	"	"
5. 12	"	"
6. 17	"	"
7. 8	"	海保航空機
7. 9	"	"
7. 18	"	海自航空機
8. 13	"	"
9. 17	"	"
10. 23	"	"
11. 11	" (日光海山は観測せず)	"
12. 16	"	"
1988. 1. 7	" (福神海山は観測せず)	"

\* Received Jan. 27, 1988

2. 福徳岡ノ場 北緯 24度17.0分  
東経 141度29.1分

第2表に示すように、この期間はその規模の大小の差はあるが変色水が認められている。

第2表 福徳岡ノ場の火山活動の経過

Table 1. Volcanic activities of the Hukutoku-Oka-no-Ba.

年 月 日	観 測 結 果	出 所
1987. 2. 18	西北西に流れる約500m, 幅約60mの緑色変色水を認めた。	海自航空機
3. 17	半径約500mの緑色変色水を認めた。	〃
4. 14	東西約3Km, 南北約50mの緑色変色水を認めた。	〃
5. 12	東西約6Km, 南北約2Kmの茶緑色変色水を認めた。	〃
6. 17	南硫黄島の北約2海里に長さ300~500m, 幅約50mの3筋の青紫色変色水が, 南硫黄島の東約2海里に約2Km×2Kmの黄緑色変色水が認められた。また、この2つの変色水の中間にも黄緑色の変色水が認められた。	〃
6. 26	南硫黄島北端の北々東約500mの地点から北へ長さ約1.5海里, 幅約1海里の薄緑色変色水を認めた。	〃
7. 8	新島跡付近に乳白色変色水及び1筋の軽石の浮遊が, またここから西北西へ長さ約8Km, 幅約500mの薄黄緑色変色水が認められた。	海保航空機
7. 14	10~15分間隔で海面が白く変色し, そこからしぶきのようなものが10mぐらい吹上っていた。	尾鷲漁船 珠美丸
7. 15	新島跡付近から東へ長さ約10海里, 幅約500mに黄緑色変色水及び軽石の浮遊が断続的に認められ, また南硫黄島付近にもこれらが認められた。新島跡付近には数分間隔で発生する直径100~150mの円形の白波がみられ, 発生時にはしぶきが空中に飛び散っていた。白波からの変色水及び軽石の放出は認められず, 白波と付近海面との温度差はなかった。	海保航空機
7. 16	長さ約2海里, 幅約1海里の変色水及び褐色浮遊物が認められた。なお, 白波等の異常現象は認められなかった。	海自へり
7. 17	新島跡付近に, 黄緑色変色水があり, これが長さ約7海里, 幅30~100mの薄緑色の帯状になって東へ流れていた。変色海域の東端付近には軽石の浮遊が認められた。	海保航空機
7. 18	東へ流れる長さ約10Km, 幅約100mの黄緑色変色水が帯状になっており, 付近には浮遊物も認められた。	海自航空機
7. 21	湧出点は2か所(青白色及び黄緑色変色水を放出)あり, これが長さ約7海里, 幅約0.5~2Kmの帯状となり東南東へ流れており, 軽石の浮遊も認められた。火山活動の状況は7月17日と同程度であった。なお, 新島跡の海底が視認できた。また, 南硫黄島周辺にも黄緑色変色水が認められた。	海保航空機
7. 30	東へ流れる長さ約5海里, 幅約0.5~2Kmの濃緑色変色水が認められ, その中の所々には筋状の浮遊物が認められた。なお, 変色水の湧出点及び新島跡の海底は判別できなかった。	〃
8. 1	濃黄緑及び濃緑色変色水を認めた。	海自へり
8. 2	福徳岡ノ場を中心とする半径5海里の海域には, 福徳岡ノ場に変色水を認めたほか, 変色水, 軽石等は認められなかった。	海保測量船 「昭洋」
8. 13	東西約4Km, 南北約10mのコバルトブルー変色水を認めた。	海自航空機
8. 16	直径約100mの紫色変色水と直径約300mの茶色変色水を認めた。付近に浮遊物は認められなかったが硫黄臭がしていた。水深11mを測得した。	西日本汽船 ユートピア
8. 17	直径約3Kmの変色水域があり, その中に湧出点を2か所認めた。	海自航空機
9. 4	福徳岡ノ場において火が2, 3分見えたという漁業無線をアマチュア無線家が傍受した。	気象庁 火山室
9. 17	淡緑色の変色水を認めた。	海自航空機
10. 23	長さ約6海里, 幅0.5~2Kmの薄緑色変色水を認めた。	〃
11. 11	北北東に流れる約6Km, 幅約0.5Kmの淡緑色変色水を認めた。	〃
12. 16	東西約2海里, 南北約1海里の緑色変色水を認めた。	〃
1988. 1. 7	南に流れる約5海里, 幅約2海里の淡緑及び茶緑色変色水を認めた。	〃

3. 明神礁           北緯    31度54.5分  
                      東経   140度00.9分

昭和62年10月21日10時40分頃、焼津漁船「第11シントク丸」はN31°55.10' E140°01.38'において、次第に広がりつつある直径約100mの変色水を認めた。なお、6時30頃には認められなかった。

翌22日11時05分～11時30分、海保航空機が、また23日15時36分～15時42分、海自航空機がそれぞれ同海域を調査したが、変色水は認められなかった。

昭和62年12月9日11時47分～12時31分、海保航空機はN31°55.0' E139°59.8'において、直径約70mの弱い薄緑色変色水を認めた。その後、変色水は更に薄くなった。活動は極く微弱なものと考えられる。

明神礁における最近の火山活動は、昭和61年10月24日海自航空機（会報第38号参照）が変色水を認めている。

（注）「海自航空機」とは海上自衛隊第四航空群所属航空機P-3C、「海保航空機」とは海上保安庁所属航空機YS-11、「海自ヘリ」とは第四航空群硫黄島航空基地分遣隊所属ヘリコプターS-62Aのことである。